



新たな夏のイベントが誕生

第1回のぼりべつ夏祭り

8/10-11

8月10日(出)・11日(回)、川上公園で『第1回のぼりべつ夏祭り〜いぶり食と文化の祭典〜』(同実行員会主催)が開催されました。

この催しは、『のぼりべつ豊水まつり』が昨年で終了したことを受けて、『これに替わる夏のイベントが必要』と考える有志が企画しました。

夏祭りは、幼稚園児によるかわいらしい遊戯で開幕。

会場には胆振のご当地グルメを集めた『いぶりマルシェ』や子ども広場、足湯広場などが設けられたほか、ステージでは、吹奏楽演奏やダンス、太鼓演奏、かき氷早食い競争、大ピンゴ大会などの催しが行われ、参加した多くの市民は祭りを満喫していました。

また、メインイベントの一つ『シン1GPP』には、キムチやシヨウガなどで味付けされた6種類のジンギスカンが登場し、新たな味覚が提供されました。



▲完成したバッジを披露する登別市共同募金委員会会長の横尾逸郎さん(前列右)

『赤い羽根×鬼』で当地バッジで地域福祉に貢献

7/22

寄付金付きご当地バッジ完成披露
7月22日(月)、市役所に登別市共同募金委員会正副会長が訪れ、『寄付金付きご当地バッジ』を披露しました。

同委員会は、登別地獄まつりが今年で50回目を迎えるのに合わせ、登別観光協会と共同でピンバッジを作成しました。

バッジには鬼の子どもが赤い羽根を持ち50回目の登別地獄まつりを宣伝する図柄があらわられています。

価格は500円で、購入代金の一部は登別市の地域福祉活動に活用されます。



▲親善試合で日ごろの練習の成果を発揮する選手たち

柔道を通して姉妹都市交流

少年スポーツ交流事業武道大会

7月28日(日)、日本工学院北海道専門学校武道場で『少年スポーツ交流事業武道大会』(登別・白石姉妹都市少年スポーツ交流団主催)が開催され、両市の小・中学生が柔道の親善試合を行いました。

この事業は、昭和62年から毎年行われ、年ごとに野球やサッカー、剣道などの競技を通して交流を深めています。

子どもたちは最初緊張した面持ちでしたが、試合が進むにつれてお互いに打ち解け、楽しい夏の思い出を作っていました。

7/28

誰の船が一番速いかな

夏休み工作教室『スクリーナー船』

8月1日(木)、郷土資料館で『夏休み工作教室・スクリーナー船』(市主催)が開催され、14組の親子が参加しました。

子どもたちは、真剣な表情でペットボトルにスクリーナーを取り付け、輪ゴムの力で動く船を作りました。

完成した船が池に浮かび、実際に動き出すと、子どもたちから歓声が上がリ、誰の船が一番速いか、競走が始まりました。

その後は水遊びをして、子どもたちは楽しい夏の日を過ごしました。



▲自分で作った船で競走する子どもたち

8/1

多彩なステージイベントに釘付け

8/3・4

第26回グリーンピアサマーフェスティバル

8月3日(土)・4日(日)、若草中央公園で『第26回グリーンピアサマーフェスティバル』(同実行委員会主催)が開かれました。

会場には、市内の菓子店や飲食店、金魚すくいなど、多くの露店が軒を連ねました。

ステージでは『ストリートダンス』や『獣電戦隊キョウリュウジャーショー』、『よさこいソーラン』、『輪投げ・フラフラフ大会』など多彩な催しが行われ、炎天下にもかかわらず多くの観客が集まり、盛り上がりを見せました。

また、景品として登別温泉の宿泊券などが用意されたビンゴ大会には、多くの親子連れが参加し、数字が読み上げられると一緒にビンゴカードを確認し合つなど、楽しいひとときを過ごしていました。



▲『獣電戦隊キョウリュウジャーショー』に見入る子どもたち